

2022年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月4日 文学部 哲学科

問題Ⅱ

問1

ある主張を相対化することは、その主張の否定にも選択の余地を与えるということである。相対主義を主張とみなした場合、相対主義もまた相対化され、相対主義の否定にも選択の余地が与えられる。すなわち、絶対主義にも選択の余地が与えられることになる。

問2

「矛盾」とは、ある主張を支持し、同時にその主張の否定を支持することである。「転身」とは、ある主張を支持していたが、ある時、その主張を捨て、別の主張を支持することである。両者の間には、主張とその否定の間における同時性の有無に違いがある。

問3

立場 α では相対主義が正しく、立場 β では絶対主義が正しいとする。相対主義者として立場 β を選ぶことは、絶対主義を主張することになる。しかし、絶対主義者は自身の立場 β のみを絶対的に正しいとするため、立場 α を認めない。したがって、複数の立場を認める相対主義でありながら、相対主義を捨てる(絶対主義を取る)ことは不可能である。

問4

Rを相対主義の「主張」とし、Rを仮定する。「すべての主張」にRが含まれことから、RにRを適用すると、Rの否定を認めることになり、仮定と矛盾する。Rを否定せず、矛盾を回避するために、Rを「主張」としないことで「すべての主張」にR自身を含まないようにする。このとき、相対主義はRによって相対化されず、絶対性を持つことになる。

問題Ⅲ

[a]~[e]

【出題意図・採点方針】

哲学的関心の有無、哲学的な問題の分析能力、哲学的な論証能力を問う問題。幅広い哲学的な問いからひとつを選択し、その問いについて、自身の見解を明確に提示し、それを論理的かつ説得的に論証する能力が問われている。どの選択肢についても正解はないが、ひとつの主張を述べるにしても、問題を多角的な観点から分析し熟考した跡が感じ取られるような論述が望ましい。また、問いの設定それ自体、あるいは問いで用いられる概念や概念図式そのものを批判的に吟味した上で論述がなされるとなおよい。テストの現場で初めて考えるのでは一面的な見解しか思いつかないであろうから、日頃から哲学的な問題について様々な角度から深く考える習慣を身につけておいて欲しい。なお、哲学的な論証に相応しい語彙や表現が用いられているか、誤字脱字はないか、一読してわかる文章構成がなされているかといった、文章力も評価対象となる。